

【にんげん部門・優秀賞】

友達の友達

大谷中学校 1年 細見 礼

私は中学校に入ってから、新しい友達ができました。その子とは気が合い、徐々にお互いに心を開き、親友のような関係になりました。親友はとても明るく、誰からも好かれる子で、先輩や同級生にもたくさんの友達がいました。そのおかげで、私も多くの人と仲良くなることができ、人と関わることの大切さを知るようになりました。これからも人とのつながりを大切にしていきたい、そう思いました。

しかし、人間関係は思うようにいかないこともあります。親友には、小学校から仲の良い友達がいました。その子との仲良くなり、私たちは三人で一緒に登校するようになりました。最初は三人で楽しく話したり遊んだりしていましたが、部活動が始まるとその子だけ違う部活に入ったため、帰る時間や話す内容が合わなくなり、すれ違いが生まれました。次第に、私たちは喧嘩をするようになっていきました。その友達は、「自分だけが仲間外れにされている」と感じるようになり、次第にその思いが強くなっていきました。そして、喧嘩も次第に激しくなっていきました。でも私は、その子のことを嫌いになることができませんでした。なぜなら、私の中にも「自分にも悪いところがあったかもしれない」という思いがあったからです。けれど私は、その気持ちをなかなか受け入れることができませんでした。自分の非を認めたくなかったのです。しかし、認めなければ自分の思いを正しく伝えることもできないと気づきました。それからは、お互いの気持ちを素直に伝え合えるようになり、友達と仲直りすることができました。

この経験を通して、私は「友達との喧嘩の原因は、決して一方的なものではなく、自分にも何かしらの原因がある」ということに気づきました。今後も人との関係の中で相手も気持ちだけでなく、自分の行動も振り返り、見つめていけるようになりたいと思います。